

ロシア音楽のメロディ好む青年

去る六月中旬から下旬にかけて上海、西安、北京を訪れた。今回訪中したのは、四人組以後の中国の現状を考察すると同時に、国際政治や国際関係論の分野の学術交流の可能性を打診することも目的の一つであったが、私にとっては極めて刺激的な密度の濃い旅行であった。私にとって中国訪問は三回目である。最初は一九六六年秋、文化大革命の高潮期で紅衛兵運動が熱狂的に繰り返されて...

「四人組」が批判されているばかりか、「プロレタリア文化大革命」そのものはもうトータルに否定されたのである。文革によって打倒されたすべての幹部が復職しつづけるばかりか、芸術や文化すべてが復活しつつある。長安街の「民主の壁」はいまも壁新聞で賑わっており、私が訪れたときには「劉少奇同志」を題して「近代化」の概念で中国の「現代化」を考へるわけにはいかない。この壁新聞の筆者は吉林省から、この壁新聞の筆者は吉林省から...

西安では郊外の人民公社を訪れた。その日も集団労働で行われておる。四つの現代化といわれておる。現代化は機械化を自指すのだから、それは省力化につながり、それだけに膨大な過剰労働人口をどのように再配置していくのかを考へたけれども、われわれ自身は「劉少奇同志」を題して「近代化」の概念で中国の「現代化」を考へるわけにはいかない。この壁新聞の筆者は吉林省から、この壁新聞の筆者は吉林省から...

同士でしばしばさわさわと話し合った末、「三百」は認めるが、「一包」は認めない。この「三百一包」とは、自留地・自由市場・自主採算制（三百）、および農業生産の二戸ごとの請け負い（一包）のことである。この点を北京に来てから革命委員会の幹部に聞いたところ、彼はなんと「三百一包」は結構である」とさえ語っていた。北京二黒の結婚が映画化されて人気を博していた。著名な作家といえは一九五七年の反右派闘争の時期に反党作家として摘発された丁玲、女史の元氣な姿が、毛沢東の三人目の妻で、江青女史の出現によって悲劇的な末路を辿った賀子珍女史とともに「人民日報」に写真入りで出ていた。彼女たちは現在、人民政治協商会議の委員になっている。

白の丁玲女史の復讐などは「四人組」の犠牲者としてどうしても語明がつかない。かつて五〇年代前半に活躍した薄一波や薛暮橋などの経済専門家も、旧幹部の大物で一貫して毛沢東路線に批判的であった陳雲副主席とともに脚光を浴びていることに見られるように、今や中国は五五年後半の急激な農業集団化以降のプロセスを根本的に否定しようとするかのようであり、毛沢東路線の犠牲者ももともと復活しているといえる。中国というこの圧倒的現実は今ももつめている。

現代化の中国を旅して

急速に風化している毛沢東思想

中嶋嶺雄



中国は何処へ行くのか。その前途には、激動の四半世紀を経て独自の社会主義を初めて形成し得る可能性とともに、ソ連型修正主義もしくはユーゴ型混合経済、はたまた旧中国の復活へとおもむく可能性さえ存在している。こうしたアンビバレントな状況のなかに、中国というこの圧倒的現実は今ももつめている。

毛沢東路線犠牲者はすべて復活

いうまでもないことだが、文革期に江青女史が力を入れた革命劇であり、毛沢東路線の犠牲者ももともと復活しているといえる。中国というこの圧倒的現実は今ももつめている。

巨大な転換期の中国の民衆の心理

さて、私は冒頭で中国の巨大な変化といったが、それは要するに「毛沢東思想」を建国の理念としてきたこの国が未曾有の転換を遂げようとしてつづいていることを意味している。依然としてタテマエとして...

右のハブニングは私にとっても

強烈な衝撃であると共に、今日の中国の民衆レベルの心理がどの方向に進もうとしているのかを端的に物語っている。もちろん、私が偶然出逢ったこのケースは、彼ら極めて例外的なものであるかもし...

それは六月十九日のことであつた

それは六月十九日のことであつた。故宮（紫禁城）に近い北海公園は雨で煙っていたが、こぼれ...

それは六月十九日のことであつた

それは六月十九日のことであつた。故宮（紫禁城）に近い北海公園は雨で煙っていたが、こぼれ...

それは六月十九日のことであつた

それは六月十九日のことであつた。故宮（紫禁城）に近い北海公園は雨で煙っていたが、こぼれ...

(東京外国語大学教授)



月の間に、カーター大統領の訪日、それに伴う東条サミットの開催、そしてその間OPEC諸国の石油値上げによって原油バブル一〇ドル時代が到来したと、これらの過程の中で、いつしかこの問題は、うやむやのうちに解決されたもの如くにみえる。日本にとつて最も強い交渉相手であったストラスウス氏も、いつしか中東移動大使として油やアラブの問題に専念しているようである。

# 80年代の日米関係への注文

(上)

## ◇反省すべき日本の経済聖域論◇

神谷不二



明に対処し得るといことは、それ自体フランスの材料であるはずだが、しかし今後の新しい時代の特題なのは米国民が日本について余りにも無関心なことだ。一般国民が無関心ということば、特定の関心を持ったグループによって対日政策が決定される、という危険を生ずる。オレンジや牛肉が問題になるのも、こういうところに原因がありそうだ。また、一方で日本を知っている知識層は、日本を神秘的な国と見ている。ということば、どうもよくわからない国だと見ているわけだ。そのうえ、最近日本をアンフェアな国とみはじめたようだ。これが必要なのは米国民に日本を知らせるための努力だ。新聞社の特派員がウシントン、ニューヨークに重点をおいているのも問題だ。たゞそれはシカゴや米国内各地にもマスコミの網をはるべきである。外務省の出先官の増強も急ぐべきは当然のことだ。

米西国経済の基本的諸条件にかかわるいくつかの変化によって、昨年度一六億ドルも達した日本の対米貿易黒字は、今年度において大幅に減少する見込みだし、また日本の国際収支全体も去年までとはちがった厳しい基礎に転じつつあるとみられている。そういう事情によって、さしものNIT問題にもなしくずし的な、そしてある意味ではうやむやな解決もたらされようとしている。

### 外庄・譲歩の悪循環から脱せよ

日本側について指摘したいことは、外庄と譲歩との連鎖を断ち切ることである。繊維交渉以来の対米態度を振り返ってみると、結局のところ、厳しい外庄や大きなショックがもたらされなければ、当然譲歩すべきところについて、日本は進んで譲歩しはしない、という非難を浴びせられても仕方がない行動をとってきたと言わねばならない。NITの問題にしても、政府譲渡開放の問題がやがて日米間、日欧間の経済貿易交渉で取り上げられるであろうことは、すでに数年前指摘されておる。その外庄と譲歩の連鎖を断ち切るには、外庄と譲歩の連鎖を断ち切る必要はないというところ、ものにはおおよそ相場と常識と

が、国民一般の支持を得、信をつなぐゆえんであると思われ。松野英が五億円のいわゆる政治献金を受け取ったという事件にしても、五億というのはそれだけの説明や口実が付け加えられるにしても、世間一般の相場や常識から考えればそれだけに相応しい謝罪を込めた謝罪金を受け取った手打たなければならぬ。それが判明した議員にたいして今もって除名も離党勧告も出さない自民党の姿は、当面はそれで済ませたいという出来限りのことなわねばならない。にもかかわらず、かれ主義で対心しつと、相手方からの義理あかまわぬ圧力がからねばめったに譲歩をしないという旧態依然たる姿勢を維持するが、これは決して日本がアメリカ国民の間で支持を得、その信頼を高めるに資するし態度ではないと考えられる。

間に次第に解消されてきたものの、依然として自衛隊の存在をきえ全面的に否定しようとする国民が、何割かは国内に存在しているし、また自衛隊の存続を容認する国民の間においても、それが現在以上に飛躍的に強化されることになり、警戒の念は非常に強まっている。いっしょに。

### 軍事で鋭敏、経済で鈍感な日本

このような傾向は、単に太平洋戦争前の軍国主義への反動という面からだけでなく、もっと積極的と思われる。なぜかといえば、日本の経済力は社会的なシステムが、東京サミットに集まった先進諸国を合算したよりも、今や一六〇年代の末に起きた日米繊維交渉以来の日米貿易戦争、経済摩擦がその頂点に達したものであ

このように反省しなければならぬ。第二の点は、一言でいえば、経済的でない文化的領域に、あるいは、非軍事的なもの、あるいは、これが一言でいえば、新しい

【運営委員長】賀藤三  
【運営委員】会田雄次 加藤 寛 高坂正孝 村松 暎 吉 大平善和 加藤俊一 神谷不二 加藤 寛 木内内胤 賀藤三 久保田きぬ子 高坂正孝 坂本 隆 鈴木重信 竹山 道雄 角田 順 長谷川進一 林 健太郎 福田博存 櫻島 輔 三好 修 武藤光朗 村松 暎 吉村 正

【運営委員長】賀藤三  
【運営委員】会田雄次 加藤 寛 高坂正孝 村松 暎 吉 大平善和 加藤俊一 神谷不二 加藤 寛 木内内胤 賀藤三 久保田きぬ子 高坂正孝 坂本 隆 鈴木重信 竹山 道雄 角田 順 長谷川進一 林 健太郎 福田博存 櫻島 輔 三好 修 武藤光朗 村松 暎 吉村 正